

火災はひとつではありません！

# 秋の火災予防運動

11月9日～15日は秋の火災予防運動期間です。これからの時季は空気が乾燥し、火災が起こりやすくなります。

火の取り扱いには十分注意して、大切な生命や財産を一瞬で奪ってしまう火災を予防しましょう。

消防局予防課 ☎202-1613 FAX202-1669

全国統一防火標語 **守りたい 未来があるから 火の用心**

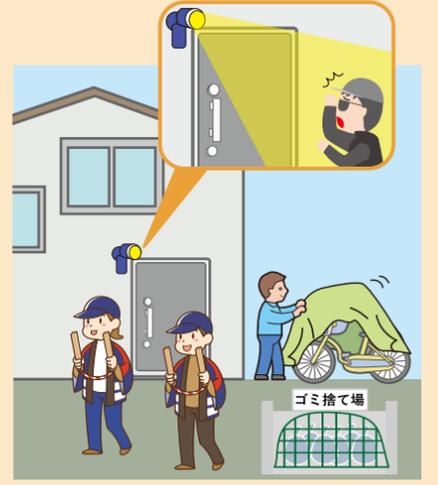
## 出火原因ワースト5

今年、市内では144件の火災が発生し、5人が亡くなっています。（2024年6月時点）

- 1 たばこ  ..... 21件
- 2 放火（疑い含む）  ..... 20件
- 3 配線  ..... 16件
- 3 たき火  ..... 16件
- 5 電気機器  ..... 11件

## 放火を防ぐポイント

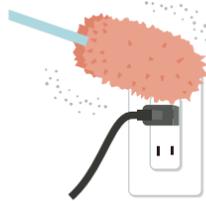
- 家の周りに燃えやすい物を置かない
- ごみは指定された日時・場所に出す
- 物置や車庫には鍵をかける（オートバイや自転車のカバーに防災品を使うことも有効）
- 建物の死角をできるだけ作らないように外灯（センサーライトなど）を設置し、明るくする
- 防犯パトロールなどに積極的に参加し、放火されない環境づくりに協力する



## 住宅防火 いのちを守る10のポイント

### 4つの習慣

- 寝たばこは絶対にしない、させない
- ストープの周りに燃えやすいものを置かない
- コンロを使うときは、火のそばを離れない
- コンセントのほこりを清掃し、不要なプラグは抜く



### 6つの対策

- 火災の発生を防ぐために、ストーブやコンロなどは、安全装置の付いた機器を使用する
- 火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を定期的に点検し、10年を目安に交換する
- 火災の拡大を防ぐために、部屋を整理整頓し、寝具や衣類、カーテンを防災品にする
- 火が小さいうちに消火できるよう、消火器を設置し、使用方法を確認する
- お年寄りや体の不自由な人は、避難経路と避難方法を常に確保する
- 防火防災訓練への参加など、地域ぐるみの防火対策を行う



## 感震ブレーカー、設置していますか？

地震を感知すると自動的に電気を遮断する優れもの

### 火災の種類

#### 地震発生直後の火災

ストーブなどの電気機器が転倒し、近くの可燃物と接触することなどで起こります。



#### 通電火災

停電後に電気が復旧した際、可燃物が接触した電気ストーブや破損した電源コードなどに再び電気が通ることが原因で火災が起こります。



一般的なブレーカーは漏電には対応していますが、地震による火災対策には効果がありません。感震ブレーカーを設置し、地震後の電気火災を防ぎましょう。

分電盤タイプ（内蔵型）	分電盤タイプ（後付け型）	コンセントタイプ	簡易タイプ
			
分電盤に内蔵されたセンサーが揺れを感知し、ブレーカーを落として電気を遮断	分電盤に感震機能を外付けするタイプで、漏電ブレーカーが設置されている場合に設置可能	コンセントに内蔵されたセンサーが揺れを感知し、コンセントから電気を遮断	ばねの作動や重りの落下によりブレーカーを落として、電気を遮断
約5～8万円（標準的なもの）	約2万円	約5,000～2万円	約3,000～4,000円
電気工事が必要	電気工事が必要	電気工事が必要なタイプと、コンセントに差し込むだけのタイプがある	電気工事が不要

\*工事費用を含みます。